

白鶯書道會



創刊號

月刊書道誌

昭和二十年十二月一日發行

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

創刊を祝す

大井川幸隆

上に驕を交はし會場に書を競はしむべく「白鶯」と題して爰に創刊を見たるは、斯界の爲め江湖と共に祝福に堪えざるなり。

軍閥、官僚政治を擅にして國民塗炭に沈淪し、人心稍々もすれば癡頑の極に陥らんとす。これを放任せん乎、人性情操を缺き同胞相廻し拾收し得ざる亡國的民族に顛落するや必せり。これを燐め狂瀾を已例に歸へすの策は専ら政治家に俟つ處多しこ雖も、各人の修養、各人の反省的趣向、これに伴はざれば期し能はざるなり。

古人は晴耕雨讀を唱するも、要は精勤の寸閑を智德の琢磨に致すべきの謂るにして、特にいづれの時代に於ても戰瘻の中より自暴自棄の思潮躊躇するは歴史の示す處にして吾人の深く戒心すべき點なり。

迂輩は日々々事業の虜にされ、朝夕政治の爲に北馬南船し太だ遑なき境遇にあれども瞬刻を得れば古人の法帳を繙き寸時を得れば詩文を作讀し煙霞の癖よく疲勞を忘れるを幸福とす。然りと雖も一般青少年年婦女子は参考書を得るに由なくその渴望や久し。然るに我國の書道雑誌は今春來悉皆廢刊となり、用紙の不足は當分之等書誌の再刊を許さざる實情にあり、幸ひにして迂生は若干の手持用紙あり、之れを「白鶯」の爲に供せんとす。

諸彦は職場、朋友、隣人を相誘ひ一人は一人の會員を募集し、本誌をして書道界の最高權威にして最大の讀者を擁するものたらしめ劫がくその誌齡を累ね相互の研究に見るべき進境あらんことを望む。

秋峰君に辭を乞はれ卒言を以て祝辭に替ふ。匆忙蒙辭多謝

顧問 大井川幸隆先生
内員幹事 村田龍岱先生
佐々木秋峯先生
中津田翠岱先生
世古清孝先生
間澤岱先生
若高桑坂菊卷山荻篠佐大佐三豊花
松藤木名本地 嶋野崎川谷伯瓶田澤
翠靜清秋翠康 白艸青竹曉玄華黃龍
雨秋香邨峰雄胖厓珉洞嵐心洞雲舟

四

競書出品規定

△規定競書は次に発表してある文字を書くのであって半紙を堅に書き左侧に地名(又は支部名)段級姓銘を書きます△隨意競書は字句書体共に隨意なものを書くのであって書式其他

本會會則

一、新規入會者は住所氏名年齢等を明記し左の會費及び入會金を添へ本會へ申されたし

一、會員は毎月一回末日迄左記の書式に必ず書類を出品すること

一、書類は「規定」、「観意」の二種に分ち規定課題は毎月二回を發表す

一、會員相互の向上を計るためこれを選書し毎月成績表を送附す

一、競書の成績は師範、三段、二段、初段、一段、二級、三級、四級、五級とし新會員と雖も實力に應じ相當級に編入せしむ。但し一段以上は試験によるものとす

一、試験により師範合格者は永久會費を免除し理事に推選し添削係を依頼す

一、試験は年二回施行してその都度細目を發表す

④ 支部設置規定

一、一ヶ月金五十錢（但し六ヶ月以上前納の事）

一、新會員は以上會費の外入會金として一人金一圓也（會費六ヶ月の場合）計金四圓也を納入するものとす

一、地方會員十名以上團結する時は支部を設置し支部長の會費は免除す

一、支部長は會員名簿を作製しこれを本會に提出すること

一、基金に際しては十名以上一名二十名以上二名の割にて會費を差引送金のこと

○十二月(萬戸)擣衣聲
○一月(秋風吹不盡)
△歌舞書に出品する清書は通信文
添削清書と同封せず封筒に(一
月分競書)と書き、切日に發
ねやう本會宛に送つて下さい
十二月分は二月號にて
一月分は三月號にて
規定期題

、地方会員十名以上團結する時は支部を設置し支部長の会費は免除す
、支部長は會員名簿を作製しこれを本會に提出すること
、収金に際しては十名以上一名二十名以上二名の割にて會費を差
引送金のこと

我小部規定

初段大谷君鄉道昭の筆意を得練修しに含蓄の出するを待つ。位あり、寛博なる氣運を養ひ絵修に於て、よりて甚だ妙、少しく入り過ぎたるためか固くなるも覺ゆ。一教齋藤君沈蒼にして筆力あり愈々研讀せ望む。三教淡名君結体よく整ひ筆力出す技工多きは一考あられよ。○鈴木君老練の作、落款俗氣あり。四級半田君直筆なる筆なるも熟せざるためか二三幼稚なる線ありて形体失す。○小出君よく結まり練熟の趣あるも還てそれが弊害となり贅氣に感す、貴下將來のため打開策を考じては如何。五級森田君古雅愛すべし、落款又甚だ妙審査子をして陶然らしむ。○林君筆力出す益精練を望む。吉岡君直筆なる作なるも用筆未だし、更に猛習あられよ。○渡邊君

△△
諸會

○會員大募集

△会員增加は本誌の發展になります
△諸氏の御聲援を懇願致します

同
須賀口
中明神町
同
茨城縣友部町
同
那珂郡松村
同
多賀町
同
大久保字關口

桑熊引箱佐
名田田崎川
秋香禾春竹
邨堂雲苑嵐

三	二	平	友	小	同	平	一	草	平	內	小	初	三	二	師
級	級	部	名	濱	部	級	野	段	鄉	段	濱	段	範	段	範
			若	引	櫻	原	齋	篠	高	荻	大	佐			
			松	田	井	田	藤	崎	木	野	谷	伯			
出	品	者	翠	禾	幽	靜	青	久	清	青	久	玄			
ナ	シ		雨	雲	芳	哲	洞	洞	香	香	德	心			

第一回 競書成績 (昭和二十年十一月分)

○日昇級次回より通称名を記入されだし
規定部と随意は共通です

昭和二十年十二月一日

新年試筆會開催について
新日本建設の第一歩を踏まんとする昭和二十一年の
勝負を期し左記により試筆會を催すことになりまし
たから奮つて會員諸君の參加を切望いたします
○日時 一月二日午前九時本部集合
○會場 平市第三國民學校
○會費 金參圓五十錢の豫定(中食付)
但シ米一合二勺を持參のこと

筆硯紙墨の用意は有りますが成可く筆は各自持參す
る事がよいと思ひます
△尙當日の用意が有りますので出席の有無を十二月
二十五日迄必ず御一報願ひます

以上
○課題【仁風導和氣】

(今回は二級以下の
募集は致しません)

○用紙半紙堅書
○〆切十二月二十五日
○出品料無料
○發表二月號

編輯便

○待望の書道誌發行も大井川先生の絶大なる御支援と主幹の熱烈
なる努力により創刊の運びとなりましたことは會員諸君と共に
寛に慶びに堪へないを存じます
○我々は更に一段の努力不撓の精神を以て道徳の高揚を提唱し
斯道の普及に努めるごとに企々研鑽を深め今後の發展を期し
御高恩に酬ひたいと存じます
○様式其他に種々苦心を重ねましたがこれらについては初めての
こと故期待に背きましたことを多くあることと思はれますが現
下の状勢にて紙及び印刷會員の數など幾多困難が伴ひますので
暫くの御辛抱を願ひます
○實に残念です
△専め試筆會には各位の御意見を聞き出来得る限り改善して
おきたいと思ひます
△専め大井川村田兩先生の御來駕も叶
へることを存じます故萬障差縫り御來會願ます

昭和二十年十二月一日

永い間の戦争も昭和二十年八月十五日を以て其の歴
史的終幕を告げた。それに伴つて我等國民の目の前
に展開された世の中の醜状は餘りにもみじめな程の
現實面の種々相ありました。併しこれ等の中にあ
りて吾人は常に直實なものへの思慕と新しき道への
開拓とを使命とし且つ人道への芽えを只管願つて
精道を續けて居た。
幸にこの度大井川先生の寛大なる御友情の下に全面
的御援助を請ふところとなり更に先輩諸先生の御後
援と會員諸君の熱聲を浴び茲に書道誌「白鶴」の誕
生を見るに至りました。
もとより淺學愚昧にして諸氏の期待を損することは
明らかなるものと存じますが盛り上る力と愈々自己
の研鑽を高め期待を將來に荷ひ以て諸氏の指針たら
んことを契ひたいと存じます
朝夕の一紙一管は清淨なる情熱として現れ自づと人
格の陶冶人道の高揚を信じて疑はない。
諸君と共に手を振り合ひ斯道に邁進し聯か斯界に寄
與することを念願して止まない。

發刊の辭 佐々木秋峯

菊池康雄

今般佐々木秋峯先生の主宰される「白鶴書道會」
より、書道誌「白鶴」が創刊さるに就て、門葉の一員
として、心からお祝の言葉を捧ぐる次第であります
嘗ては、中央、地方に於て、數多の書道雑誌が發
刊されて居りましたが、大東亜戦の進展と共に、次
々とその姿を没したのであります。終戦後他誌の發
刊を見ざる中に、新しき理念と構想を以て、恩師佐
々木先生の、並々ならぬ御盡力により、我が「白鶴」
は雄々しく生れたのであります。
書を學ぶ上に、美育・實用・德育・勞作等種々價
値を得るのですが、最も、修養と實用の面にその本
領を發揮さるゝでせう。古人は「書は心なり」と言
つたのも理と思ひます。
私は先生の門葉に加へて戴いてから、まだ日も浅
く、書の道の初心者であります。先生、諸先輩の
御指導を仰ぎ、御叱聲を賜りて此の道に進み度いと
考へて居ります。
世に「三號雑誌」なる語があります。私達の「白
鶴」をこの仲間に入れたく無い、「白鶴」を健全に
育生するも、三號にて終らすも皆私達門下の努力次
第であります。
私は門下各位と共に、健全なる發展を期して、創
刊のお祝の言葉を致します。

發行所 白鶴書道會

福島縣平市南町三〇

福島縣平市南町三〇
發行人 佐々木興三郎
印刷所 平活版所
發行所 白鶴書道會

十二月課題

萬戶擣
衣聲

一月課題

秋風吹
不盡